

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	地域福祉課	
施策	1	地域福祉の推進	評価 責任者	藤澤 多津子	内線 2520
小施策	1-1	支援を必要とする人が福祉サービスを受けられる仕組みづくり	評価 シート 作成者	熊谷 修二	内線 2521

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<p>・福祉ニーズの拡大, 多様化や複雑化への対応が課題となっていることから, 誰もが住み慣れた地域で, 医療, 介護, 予防, 住まい, 生活支援サービスなどを切れ目なく, 横断的, 一体的に受けられる地域トータルケアシステムの構築が求められている。</p> <p>・支援を必要とする人が適切かつ確実に福祉サービスを受けられるだけでなく, インフォーマルな福祉サービス(相互扶助的な福祉サービス)につながる仕組みづくりが必要である。</p> <p>・支援を必要とする個人や家族に対する個別支援だけでなく, 専門職や関係機関, 団体, 住民などが連携しながら, 生活環境の整備や住民の組織化などの地域支援活動を総合的に推進していくことが求められている。</p>	<p>支援を必要とする人が, 適切な福祉サービスを受けられるとともに, サービス利用者の権利が尊重され, 必要なサービスが利用しやすい仕組みを構築する。</p>
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民, 地域	支援を必要としている人が, 福祉サービスを適確に受けられる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 福祉関係の相談者の数	単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題点
当初値 (H25) 55,940	人	→			
H31目標値 56,000					
H36目標値 56,000					
			<p>・ごみ屋敷への対応など, 複合的な要因により解決困難な事例に対し, 必要と思われる部門と連携して, 必要なサービスに結び付ける仕組みの構築が推進された。</p> <p>・多様な支援主体が相互に連携できる体制の構築が推進された。</p>	<p>・盛岡市社会福祉協議会に設置した地域福祉コーディネーターが中心となって, 各分野の関係機関や, 民生委員などと積極的に連携を図りながら個別支援を行う。</p> <p>・多様な福祉機関の所属員を, 相談支援包括化推進員として委嘱し, 包括的な相談支援体制の構築に向けた意見交換を行ったことにより, 推進員同士の得意分野の相互理解が進み, 連携を図りやすくなった。</p>	<p>・個人や世帯が抱える生活課題は, 多様化・複雑化あるいは深刻化している。</p> <p>・一つの相談機関では対応できず, 複数の相談機関の連携による支援を必要とする事案が, 一定程度存在している。</p>
			問題点	問題の要因分析	
				<p>・各分野の福祉制度等が充実してきたことで, 各分野の専門性が高まってたが, 支援を必要とする者が抱える問題は一分野だけでなく複合的であるため, 情報共有を行い制度間の連携を図ることが一層重要となってきている。</p> <p>・複雑化した生活課題を包括的に受け止めるための直接の窓口について, 今後整備が必要である。</p>	

今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
<p>★ 市内の相談支援機関が有機的に結びつくような体制を構築する。</p> <p>★ 支援を必要とする世帯や相談支援機関に対し, 高齢者福祉・障がい福祉・子ども子育てなどの各福祉分野の専門家がチームとして支援できる体制を構築する。</p> <p>☆1 地域福祉コーディネーターを増員し, 地域の相談ごとを受け止める。</p> <p>☆2 複雑化した生活課題を受け止めるための直接の窓口を整備する。</p> <p>☆3 身近で相談事を受け止める民生委員の活動費を増加させて, 見守り・相談事例を増やして専門家によるアウトリーチ増加につなげる。</p>	